

2020年10月23日

各位

会社名 株式会社日本エム・ディ・エム
 代表者名 代表取締役社長 大川正男
 (コード番号 7600 東証一部)
 問合せ先 IR部 棟近信司
 (03-3341-6705)

2021年3月期第2四半期(累計)及び通期連結業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、最近の業績の動向等を踏まえ、2020年7月31日に公表した2021年3月期第2四半期(累計)連結業績予想及び2020年4月30日に公表した2021年3月期通期の連結業績予想を下記のとおり修正しましたので、お知らせいたします。

記

1. 2021年3月期第2四半期(累計)業績予想の修正について

(1) 第2四半期(累計)連結業績予想の修正(2020年4月1日~2020年9月30日)

	売上高 (百万円)	営業利益 (百万円)	経常利益 (百万円)	親会社株主に 帰属する 四半期純利益 (百万円)	1株当たり 四半期純利益 (円)
前回発表予想(A)	7,300	550	530	330	12.51
今回修正予想(B)	7,750	820	800	520	19.71
増減額(B-A)	450	270	270	190	
増減率(%)	6.2	49.1	50.9	57.6	
(ご参考)前期実績 (2020年3月期第2四半期)	8,782	1,266	1,223	922	34.93

(2) 修正の理由

第2四半期連結累計期間(上半期)連結業績予想につきましては、日本国内では、人工関節及び脊椎固定器具分野における新型コロナウイルス感染症の影響による症例数の減少が、想定と比較して、少なかったこと、また米国においても、新型コロナウイルス感染症の影響により一時延期されていた人工関節分野における手術が早期に再開され、症例数が速やかに回復したことにより、想定と比較して、症例数の減少が少なかったことから、売上高は前回発表予想を上回る見込みです。

また、新型コロナウイルス感染症の影響により日米ともに営業活動が大幅に制限され、販売費及び一般管理費(主に営業経費等)の減少額が、想定と比較して、大きかったことから、営業利益以下の各段階利益も前回発表予想を上回る見込みです。

2. 2021年3月期通期連結業績予想の修正について

(1) 通期連結業績予想の修正（2020年4月1日～2021年3月31日）

	売上高 (百万円)	営業利益 (百万円)	経常利益 (百万円)	親会社株主に 帰属する 当期純利益 (百万円)	1株当たり 当期純利益 (円)
前回発表予想 (A)	17,800	2,200	2,100	1,600	60.64
今回修正予想 (B)	17,400	2,200	2,100	1,600	60.64
増減額 (B-A)	△400	0	0	0	
増減率 (%)	△2.2	0.0	0.0	0.0	
(ご参考) 前期実績 (2020年3月期)	18,083	2,644	2,581	2,164	82.02

(2) 修正の理由

通期連結業績予想につきましては、当初業績予想の前提として、上半期に新型コロナウイルス感染症は収束すると想定していたところ、現状、新型コロナウイルス感染症は収束しておらず、第3四半期及び第4四半期（下半期）も引き続き新型コロナウイルス感染症の影響を受けて症例数が減少することが不可避な状況であると見込まれること、日米両市場において新型コロナウイルス感染症の影響で医療従事者への対面営業活動の制限が継続することにより、新製品の拡販効果が限定され、新規顧客獲得も想定より遅れると見込まれること、また、下半期は上半期から延期・繰越された症例数の増加を想定していましたが、その延期・繰越された症例数が減少すると見込まれることに伴い、下半期の症例数が想定より減少する見込みであることから、改めて通期連結業績予想の見直しを行った結果、通期連結売上高の予想値を修正しました。

併せて、下半期の販売費及び一般管理費の見直しを行った結果、売上高の減少に伴い支払手数料等の変動経費の減少が見込まれることから、営業利益以下の各段階利益については、前回の予想値を変更しておりません。

なお、連結業績予想の前提としている対ドル為替レートは1ドル106円です。

※ 上記に記載した業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。実際の業績等は、様々な要因により大きく異なる可能性があります。

以上